

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成21年9月8日(火) 5校時
学 年 八幡平市立田山中学校 第2学年
(男子4名 女子2名 計6名)
授業者 鈴木 政恵

1 単元名

Unit 5 A Park or a Parking Area? (New Horizon English Course Book 2)

2 単元について

(1)教材観

本単元の内容は、駐輪場建設をめぐる話題で、都市部では身近な社会問題である。本校を取り巻く地域社会ではあまり見られない内容ではあるが、このような問題があることを知りると共に、これから生きていく中で類似した多くの今日的課題に直面したとき、「AかBか」のような問題の賛否の論点を整理し、解決法を模索する態度を養いたい。ユニットの構成は①駅前の違法駐輪が原因で女の子がけがをする。②新しい駐輪場が必要との声ができ、市は公園をつぶして駐輪場にすることを決める。③しかし、市民から反対の意見も上がる。と、大きく3つの段階に分けられており、生徒が読み進めながら学習した表現方法を用いて、自分の意見を述べるのに有効であると考えている。

(2)生徒観

2学年の生徒たちは、与えられた課題にまじめに取り組み、家庭学習で予習、復習をする習慣がついてきている。ペアワークやロールプレイ等への取り組み姿勢も良い。しかし、丁寧さや正確さについては努力を要する生徒が見られる。少人数ではあるが、学習内容の理解や定着、自主的な発言、家庭での学習量には個人差がみられる。そこで授業時間内にできるだけ多く活動させることを意識して取り組んできた。まだ話すことへの自信が持てない生徒もいるが、間違いをおそれずにチャレンジする精神を大切に学習を進めていきたい。できるだけ生徒の身の回りのことに関する内容や、身近な話題を取り入れ、一人一人が積極的に、楽しく学習に取り組むことができるように場面を設定していきたい。

(3)指導観

本単元では、従属接続詞を用いた文を初めて扱う。一文の中に主述の関係が2つ入っていることにより、混乱する生徒が出てくると考えられる。従って、文構造を丁寧に扱い、主節と従属節の意味上の区切りを意識させながら理解させたい。Reading for Communicationは2時間扱いであるが、1時間1ページではなく、2ページまとめて2時間扱いとして、文章全体をつかむようにする。その後、自分の考えを発表しようという見通しの元に、はじめに本文を通読した後、一人一人の感想を聞く。そこから広げたりふくらませたりして意見をノートに書かせる。それから発表へと進んでいきたい。最後の「記事を書こう」では、生徒の身近な話題について取り上げさせ、学習した節を用いて記事を書かせ、相互に意見交換をしたい。これらの活動を通して、自分の意見に理由をつけて言ったり書いたりすることができるようにさせたい。発表を聞く態度についても指導する。正確さについては、書く段階で教師側が指導し、発表段階では意欲を重視したい。

3 単元の見目

- ・ if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・ that 節(目的)を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な会話ができる。
- ・ 新聞記事を読んで内容を理解し、またそれを参考にして 5W1H の明確な簡単な記事を書くことができる。
- ・ when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・ 投書の意見を読んで内容を理解し、またそれを参考にして簡単に自分の意見を述べることができる。
- ・ because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。

4 指導計画(5時間扱い)

- ・ <Starting Out> if 節を用いた文の形・意味・用法 1時間
- ・ <Dialog> that 節(目的)を用いた文の形・意味・用法 1時間
- ・ <Reading for Communication>
 - when 節を用いた文の形・意味・用法 1時間
 - because 節を用いた文の形・意味・用法 1時間(本時)
 - 新聞記事を書こう 1時間

5 本時について

(1) 見目

- ・ 投書の意見を読んで内容を理解し、それを参考にして簡単に自分の意見を述べることができる。

(2) 具体的評価規準

	評価規準(観念)	評価場面(方法)	A : 十分満足できる	B : 概ね満足できる	C の生徒への手 だて
関心・ 意欲・ 態度	間違ふことを恐 れず自分の考え を話している。	自分の考え発表 (観察)	はっきりした発音 で相手に伝えよう としながら発表し ている。	はっきりした発 音で発表してい る。	聞き手に伝える ことを意識させ て元気に発表さ せる。
表現 の 能力	学んだ文法表現 を使って書くこ とができる。	自分の考えを書く (ノート)	賛成反対の立場を 明確に表し、 because を用いて 意見に理由をつけ 2つ以上の文を述 べている。	賛成反対の立場 を明確に表し、 because を用い て意見に理由を つけて述べてい る。	主節と従属節を 分けて考えさせ、 それから接続詞 でつなぐよう助 言する。
理解 の 能力	書かれた内容に ついて正しく読 み取ることができる。	本文読み取り (ノート)	True or False や Q&A にすべて正 解している。	True or False や Q&A にほぼ正解 している。	本文にもどって確 認させる。
言語や 文化に ついて の知識 ・理解	文構造について の理解している。 場面や状況にふ さわしい表現を 使っている。	自分の考えを書く (ノート)	正しい文構造で場 面にふさわしい表 現を使い2文以上 書いている。	正しい文構造で 場面にふさわし い表現を使い、 1文書いている。	基本文を参考に させながら正しい 文構造と表現を 理解させる。

(3) 展開

段階	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点 ○評価
導入 10分	1 挨拶		
	2 Warming up	・ 前時までの表現を復習する。	・ 本単元で、前時までに学習した節を想起させ、課題へつなげる。
	3 課題の確認	・ 今日の課題を確認する。	
意見を述べるために必要な表現をまとめ、 それを使って自分の意見を述べよう			
展 開	4 新出語句	・ 新出語句の読みと意味を確認する。	・ 前時で学習したが、定着のために再度行う。
	5 本文を読む	・ 本文を通読し、True or False や Q&A で内容を確認する。	・ CD の後に続いて音読させる。 ○書かれた内容について正しく読み取ることができる。（発言）
	6 表現の確認	・ 意見を述べるために必要な表現を考える。 賛成：I am for~ 反対：I am against~ 考え：I think (that)~ I hope (that)~ 理由：because	・ 1文の中に主述の関係が2つ入る文であることを補足する。
	7 自分の考えを書く	・ 市の決定に賛成か反対か、自分の意見をノートに書く。	・ 接続詞becauseを用いて、賛成反対とその理由を1文にまとめるよう指示する。 ・ 机間観察をしながら正しい文になるように支援する。 ○学んだ文法表現を使って書く。 (ノート)
	8 発表する	・ 1人ずつ前に出て発表する。	○場面や状況にふさわしい表現を使っている。(ノート) ○間違いを恐れず発表している。(発表)
35分	9 学習のまとめをする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><意見を述べる> 賛成：I am for~ 理由：because 反対：I am against~ 考え：I think (that) I hope (that)</p> </div>	
	10 自己評価	・ 本時の学習について自己評価する。	
終末 5分	8 次時予告	・ 新聞記事を書くことを知る。	

